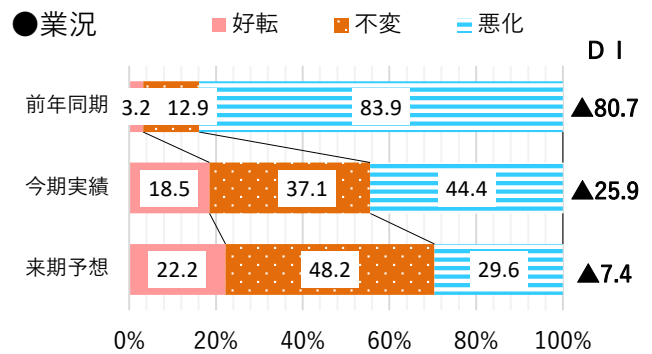


# 小 売 業

## 業況、売上、採算

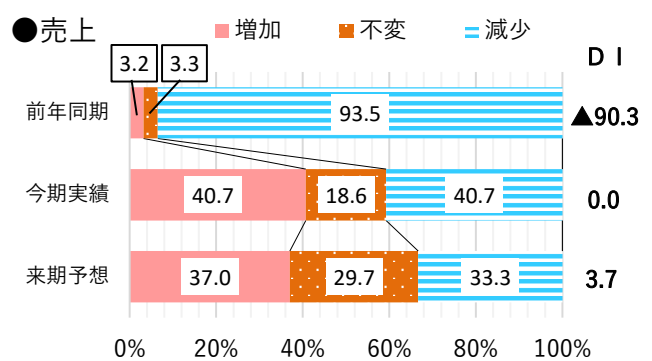
今期(2021.4~6)の業況判断DIは▲25.9で、前年同期(2020.4~6)と比べ54.8ポイント上昇し、大幅に好転しました。

来期(2021.7~9)は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



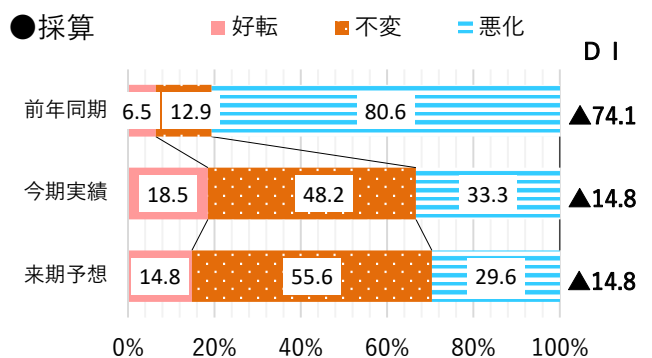
今期の売上高DIは0.0で、前年同期と比べ90.3ポイント上昇し、大幅に増加しました。

来期は、売上が増加に転じると予想しています。

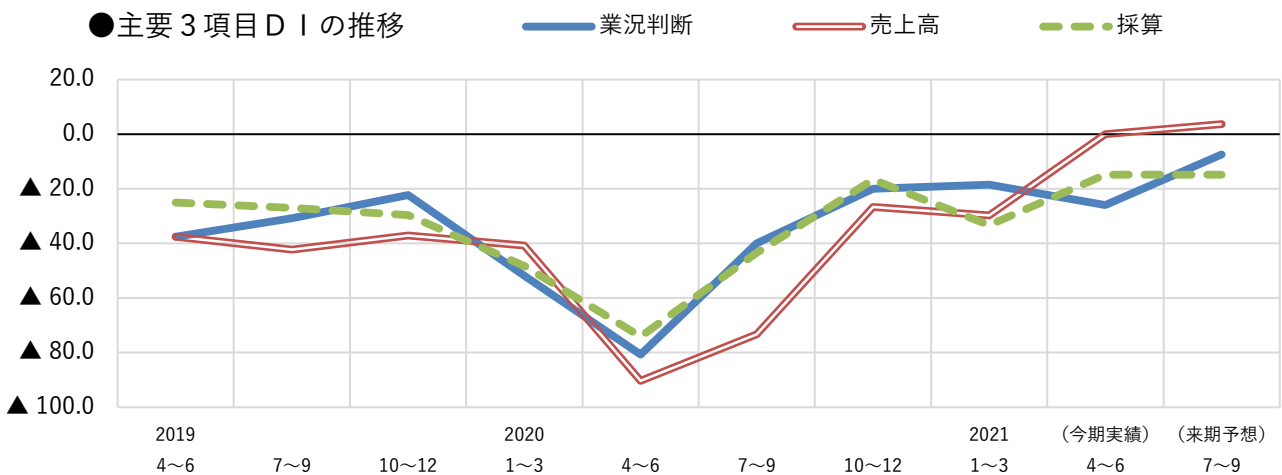


今期の採算DIは▲14.8で、前年同期と比べ59.3ポイント上昇し、大幅に好転しました。

来期は、採算の横ばいを予想しています。



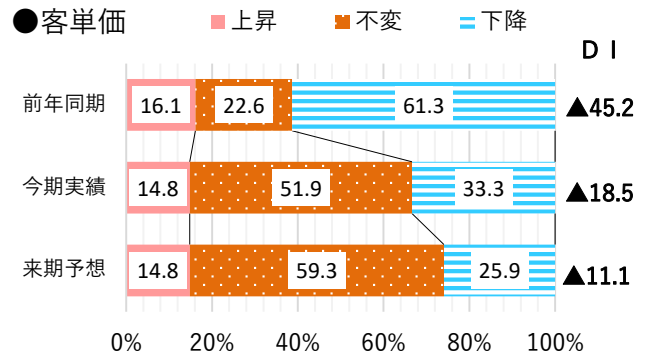
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

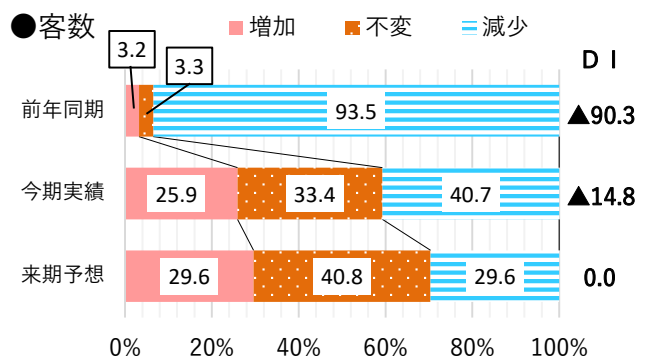
今期の客単価DIは▲18.5で、前年同期と比べ26.7ポイント上昇しました。

来期は、客単価の下降傾向が弱まると予想しています。



今期の客数DIは▲14.8で、前年同期と比べ75.5ポイント上昇し、大幅に増加しました。

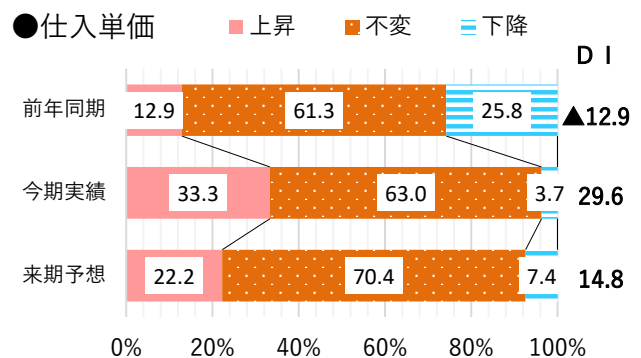
来期は、客数の減少傾向が弱まると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

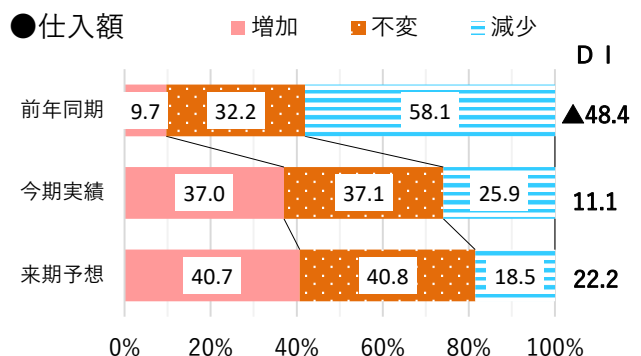
今期の仕入単価DIは29.6で、前年同期と比べ42.5ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



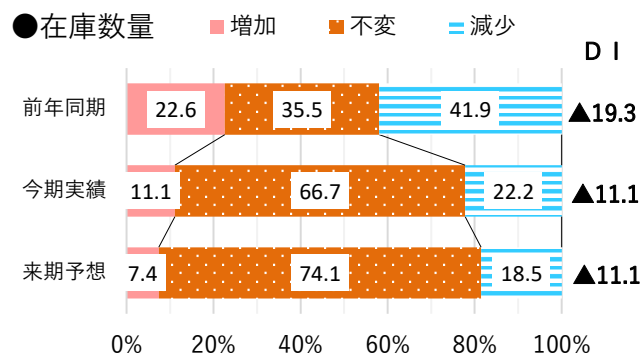
今期の仕入額DIは11.1で、前年同期と比べ59.5ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、仕入額の増加傾向が強まると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲11.1で、前年同期と比べ8.2ポイント上昇しました。

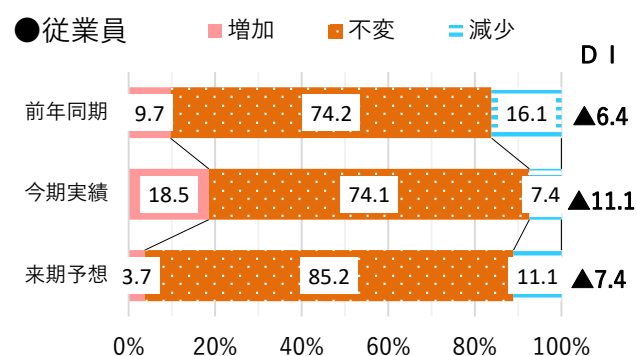
来期は、在庫数量の横ばいを予想しています。



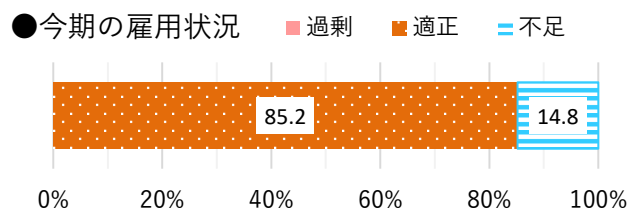
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲11.1で、前年同期と比べ4.7ポイント低下しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は85.2%、不足していると回答した企業の割合は14.8%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、小売業全体の62.9%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で増加し、充足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	4
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	17
	不足	3
減少した	過剰	0
	適正	2
	不足	0

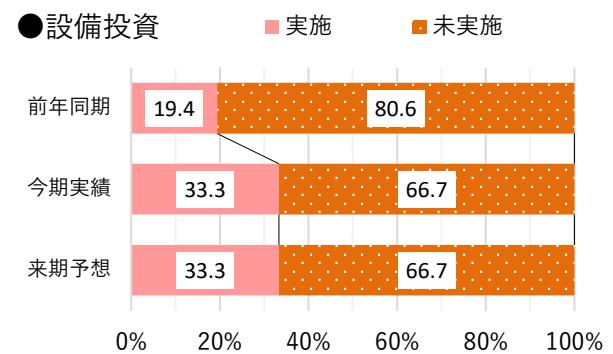
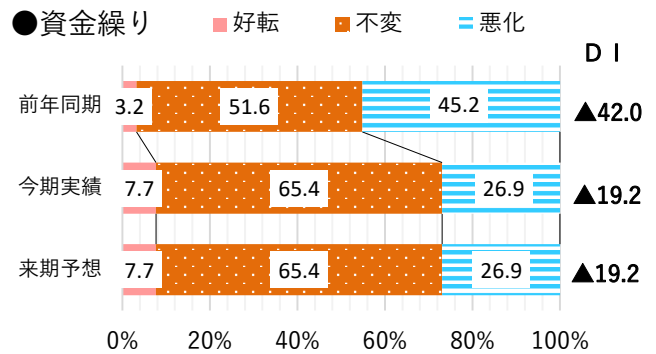
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲19.2で、前年同期と比べ22.8ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの横ばいを予想しています。

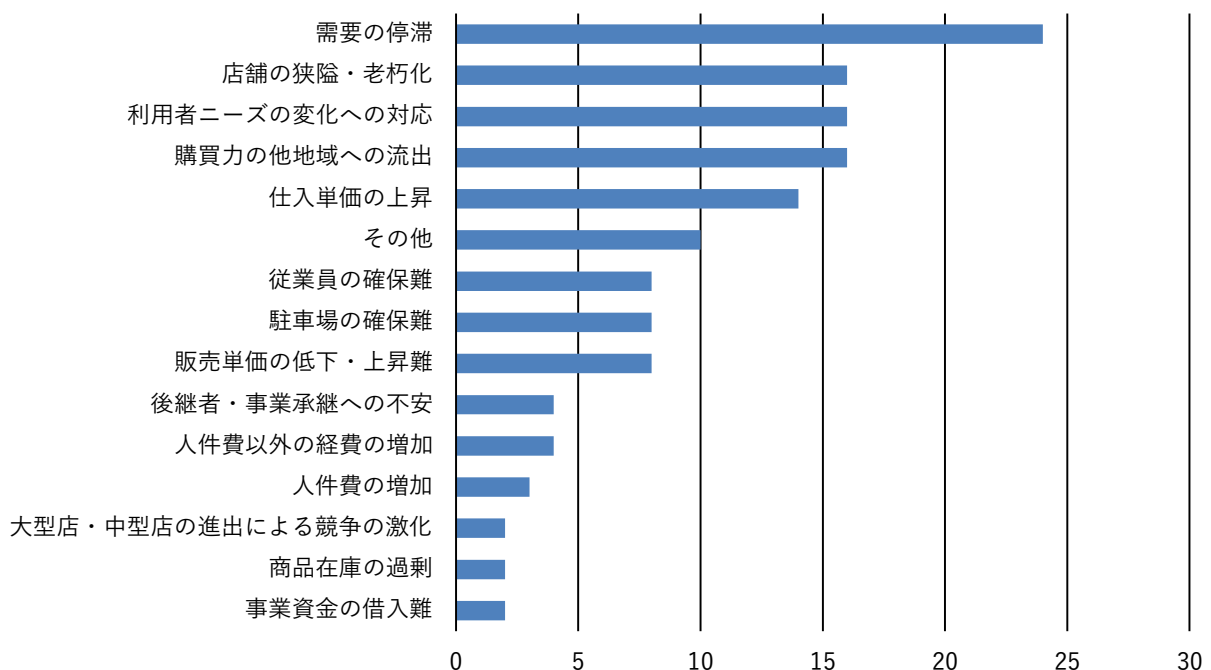
設備投資を実施した企業の割合は33.3%で、前年同期と比べ13.9%増加しました。投資内容は1位が「販売設備」、2位が「店舗」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は33.3%で、横ばいを予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「需要の停滞」、2位が「店舗の狭隘・老朽化」、「利用者ニーズの変化への対応」、「購買力の他地域への流出」（同位）、3位が「仕入単価の上昇」の順です。



## 企業の声

## [今期の業況について]

- 観光関連施設、宿泊業、飲食業への売上が低迷した。店頭小売額は微減だが、ネット販売額は新店舗を開設したこともあり、やや増加した。(食料品小売)
- 新型コロナウイルスの感染者が発覚したことで、市場2棟が営業停止となり、売上の減少が著しい。(食肉小売)
- コロナ禍によるお土産の需要減少や、法要や葬儀が親族のみで行われるようになったことによる引き出物の需要減少により、業況が徐々に悪化している。(菓子製造小売)
- 緊急事態宣言によってイベントが中止となり、業況が悪化した。(菓子製造小売)
- 昨年同期比で業況は好転した。店舗数の増加により、人員が不足している。(衣服・身の回り品小売)
- 売上、利用客数ともに増減は無かった。(衣服・身の回り品小売)
- 緊急事態宣言により、客数が減少した。(衣服・身の回り品小売)
- 前年度から予定していた工事に着工したことで、売上が増加した。前年度も売上を維持できており、業況は良いが、常に危機感を持っている。(家具・建具・畳小売)
- コロナ禍のため、自動車を利用した日帰り旅行や近場への旅行が増え、売上が増加した。(自動車小売)
- 融資を受けることができたため、正常に営業できた。(自動車小売)
- 半導体の不足により、新車の納期が遅れた。(自動車小売)
- 原油価格の上昇によって、売上が増加した。(燃料小売)
- 新型コロナウイルス第3波が落ち着いた頃から売上が増加したが、4月以降の第4波で再び減少した。コロナ禍が客足に影響する限り、業況は回復しない。昨年同期比の業況は好転したが、全国で緊急事態宣言が発出されていた時期との比較なので、好転は当然の結果だと思う。小売業全体では、小売店やスーパーマーケットと大型店の間で、一方が好転すればもう一方が悪化する状況が続いている。(大型店)
- 前年同期比の売上、客数は共に減少傾向にあったが、5月下旬～6月上旬にかけて、前年の売上を超える日が続いた。(大型店)
- 売上、客数ともに減少した。従業員の減少に対しては、部署間での異動で調整した。(大型店)
- コロナ禍のため、飲食店への納品量が減少傾向にあるが、昨年同期比では増加した。(コンビニ)
- コロナ禍で客数と売上が減少した。(コンビニ)
- 外出自粛が続く、客数が減少した。先行きの不安からか、客単価も下降した。今後は雇用の整理が必要になるかもしれない。(ドラッグストア)
- 10万円の特別定額給付金が給付された前年同期と比べると、売上は減少した。(家電量販店)
- 新型コロナウイルスによるイベントの規模縮小、減少で業況が悪化した。(花・植木小売)
- 採用を増やし、人材を確保した。(ホームセンター)

## [来期の業況について]

- ワクチン接種と治療薬研究が進み、コロナ禍は改善されると思う。人の往来が増加し、観光業や飲食業が活発化することで、経済活動が回復することを期待している。非接触型の決済や購買行動は、これからも静かに増え続けると思う。(食料品小売)
- 売上の減少が続くと思われる。(食肉小売)
- 例年需要が増加する時期なので、売上は増加すると思われるが、コロナ禍前の水準まで回復するかは分からない。(菓子製造小売)
- 7月に大口の注文が見込めるため、売上は増加を予想する。(菓子製造小売)
- ワクチンの接種が進み、売上が増加すると思われる。(菓子製造小売)
- 新型コロナウイルス変異株の拡大が懸念される。ワクチンの接種によって1日も早くコロナ禍が終息し、活気のあるまちになることを望む。(衣服・身の回り品小売)
- 今期と変わらずに推移すると思われる。(衣服・身の回り品小売)
- 今期の新型コロナウイルスの動向に左右されるので、見通しは立たない。(家具・建具・畳小売)

- ワクチンによってコロナ禍が終息に近づくとと思われるが、国民の移動手段が電車、飛行機、船等多様化することで、自動車の売上は減少するだろう。（自動車小売）
- 業況の悪化を見込む。（自動車小売）
- 新型コロナウイルスの状況次第だが、昨年同期より悪化することは無いと思う。少しでも早くコロナ禍前の売上に戻るように努力する。今期は老朽化した冷蔵ケースの一部入れ替えを実施しており、設備投資に対するリターンも見込んでいる。（大型店）
- 現在の傾向から多少の回復を見込むが、インバウンドの減少や公共交通機関の減便も予想されるため、昨年度の業績は期待できない。（大型店）
- 前年並みか、やや減少の売上になるとと思われる。（大型店）
- 気温に左右されるが、夏期の需要を取り込んで、売上を確保したい。（コンビニ）
- 消費を喚起するような出来事は無いと思われるので、売上と客数は減少を見込む。（家電量販店）
- 新型コロナウイルスの影響がいつまで続くのかという点に大きく左右される。オリンピックの開催によって、良い影響が生じるのかも不安に感じている。（ドラッグストア）
- コロナ禍が終息しても、以前の状況には戻らないのではないか。（花・植木小売）
- 新型コロナウイルスの影響が続き、景気の回復は期待できない。売上は減少を見込む。（ホームセンター）